

今後10年間の町の財政状況は…

財政の中・長期見通しの公表について

◆推計期間◆
平成30年度～平成39年度

「三種町行財政改革大綱」等を踏まえ、平成30年度から平成39年度までの三種町の中・長期的な見通しを公表します。

本見通しは、町の財政収支が今後どのような推移するかを試算したものです。

町の財源は、町税などの自主財源が全体のおよそ2割しかなく、半分以上は国からの地方交付税などに頼らなければならない脆弱な財政基盤です。

また、平成28年度からは、地方交付税の合併算定替による段階的縮減(※)が行われています。段階的縮減による影響額は、段階的縮減が始まる前年度(平成27年度)と一本算定となる平成33年度を比較すると、単年度で約7億円の減額と見込まれます。

それを踏まえた本見通しでは、平成39年度には約3億6千万円の単年度収支不足が生じ、累積赤字はおよそ33億2千万円になると見込まれます。当町では、地方交付税の段階的縮減による影響が大きく、収支不足の大きな要因の一つとなっています。

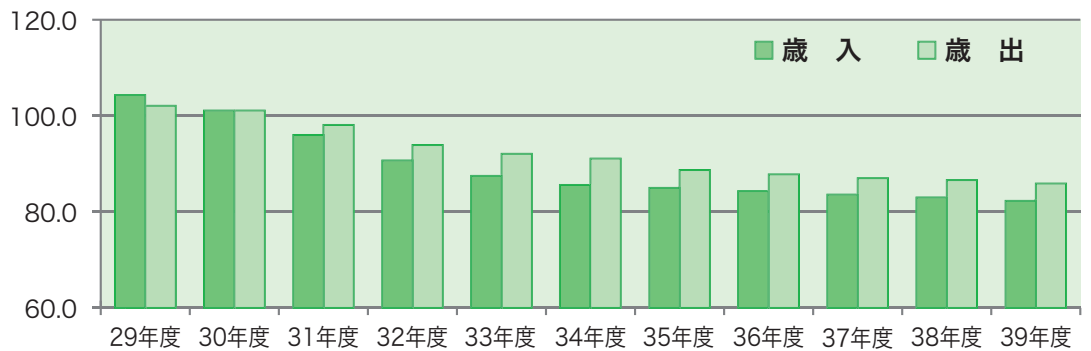
今後も、健全な財政基盤を維持していくためには、町債(借金)の抑制や、計画的な基金(貯蓄)の運用など、一層の行財政改革の取組が必要です。

※地方交付税の合併算定替による段階的縮減…合併後10年間は合併前の旧町が存続するものとして算定された普通交付税額が、11年目から段階的に減額され、16年目以降1団体として算定されます。また、1団体で算定されることを一本算定といっています。

○普通会計の財政見通し(平成30年度現行サービスベース)

単位：億円

現行サービスを維持した場合、平成39年度には累積赤字が約33億2千万円となる見通しです。これには財政調整基金の取崩による財源補てんを見込んでおりませんが、平成29年度末における財政調整基金残高は約37億円あり、財源補てんをした場合、すぐには赤字団体にはなりません。しかし、計画的な運用を図らなければ将来的に財源不足に陥ります。

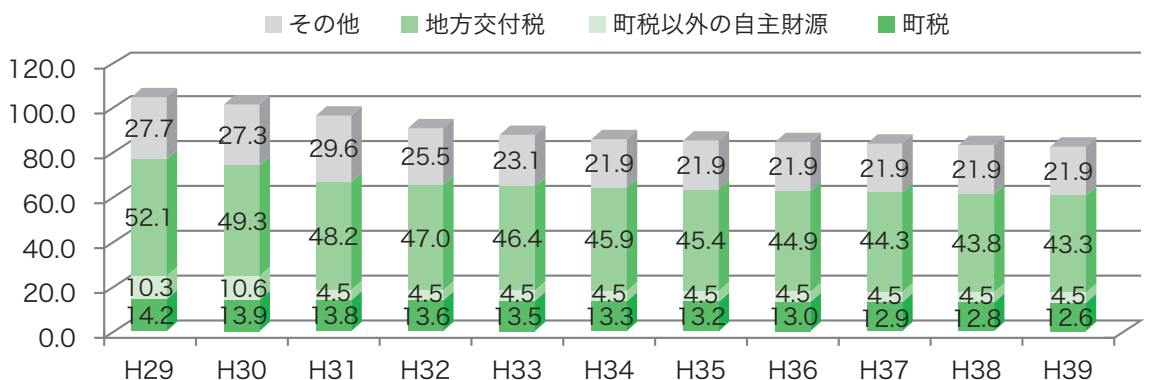


	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
歳入	104.3	101.1	96.0	90.7	87.5	85.6	85.0	84.3	83.6	83.0	82.3
歳出	102.1	101.1	98.1	93.9	92.1	91.1	88.7	87.8	87.0	86.6	85.9
単年度収支	2.2	0.0	△ 2.1	△ 3.2	△ 4.6	△ 5.5	△ 3.7	△ 3.5	△ 3.4	△ 3.6	△ 3.6
累積赤字	-	-	△ 2.1	△ 5.3	△ 9.9	△ 15.4	△ 19.1	△ 22.6	△ 26.0	△ 29.6	△ 33.2

※単年度収支の確認のため31年度以降は財政調整基金繰入金計上していません。(H29年度末財政調整基金残高37.0億円)

○歳入における町税と地方交付税の推移

単位：億円



※H33年度以降、地方交付税が一本算定になります。

●お問い合わせ先
三種町役場 総務課財政係
☎85-4816